枚方市総合文化芸術センター開館記念　枚方市文化芸術アドバイザー平田オリザ企画

青年団『東京ノート』× ニットキャップシアター『ヒラカタ・ノート』

2021年10月8日(金)→10日(日)　枚方市総合文化芸術センター 本館

青年団『東京ノート』 関西医大 小ホール

［チケット料金］ 一般：3,500円　高校生以下：2,500円 （消費税込） 全席指定

ニットキャップシアター『ヒラカタ・ノート』 ひらしんイベントホール

［チケット料金］ 一般：3,000円　高校生以下：2,000円 （消費税込） 全席自由

［チケット発売日］ ※各日10:00より発売

CLUB H-Arts（ハーツ）会員先行（電話・WEB）…… 2021年6月12日(土)

一般（電話・WEB）…… 2021年6月23日(水)

一般（窓口）…… 2021年6月24日(木) ※残席がある場合のみ

［チケットのお申込み］

枚方市総合文化芸術センター …… https://hirakata-arts.jp/ticket/

チケットデスク …… 0570-008-310（ナビダイヤル　受付時間 10:00～17:00）

窓口 …… 枚方市総合文化芸術センター別館（旧メセナひらかた会館）大阪府枚方市新町2丁目1番5号（10:00～20:00）

［プレイガイド］

チケットぴあ …… 0570-02-9999（Pコード：東京ノート＝506-749／ヒラカタ・ノート＝506-750）

ローソンチケット …… https://l-tike.com/（Lコード：東京ノート＝51550／ヒラカタ・ノート＝51526）

ひらかた観光ステーション …… 窓口販売のみ（大阪府枚方市岡東町19-1 京阪電車「枚方市」下車、東改札口正面）

＊未就学児童のご入場はご遠慮ください。

＊やむを得ない事情により、中止・延期を含め内容が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

＊高校生以下の学生席と車イス席はチケットデスクのみで販売します。学生席は、購入時・入場時に学生証のご提示をお願いします。

［お問い合わせ］

枚方市総合文化芸術センター別館 072-843-5551（9:30～20:00／休館日：火曜日※祝日を除く）

［主催］

枚方市　枚方市総合文化芸術センター指定管理者 アートシティひらかた共同事業体

枚方市総合文化芸術センター

「CLUB H-Arts（ハーツ）」先行予約会員募集中！

入会金・年会費無料

特典1 人気チケットをいち早く！ 主催・共催公演のチケット先行予約

特典2 最新の公演情報をGET メールマガジンの配信

特典3 会員だけのスペシャル企画！ 会員限定イベントの開催

ご来場されるお客様へのお願い

●入場者数を制限して販売する場合がございます。 ●ご入場の際、検温を行います。37.5℃以上の発熱など症状がある場合、入場をご遠慮いただきます。 ●必ずマスクを着用願います。（マウスシールド不可） ●手洗い、手指消毒にご協力ください。 ●出演者へのプレゼント、入待ち、出待ちはご遠慮ください。 ●感染の再拡大により、公演の中止や、出演者、公演内容、座席配置等が変更となる場合がございます。

※最新の状況につきましては当館のホームページにて随時お知らせいたします。

アクセス

枚方市総合文化芸術センター

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目1番60号

◎京阪電車「枚方市」駅から徒歩 約5分

枚方市総合文化芸術センター開館記念　枚方市文化芸術アドバイザー平田オリザ企画

青年団『東京ノート』× ニットキャップシアター『ヒラカタ・ノート』

2021年10月8日(金)→10日(日)　枚方市総合文化芸術センター

枚方市総合文化芸術センター開館記念　枚方市文化芸術アドバイザー平田オリザ企画

新たにオープンする、枚方市総合文化芸術センターの2つの劇場にて

青年団×ニットキャップシアターが、演劇界で高い評価を受けた作品をW上演。

現代人が抱える心の葛藤や寂しさを描き、今を生きるあなたを肯定する、静謐かつ情熱的な演劇ドラマ。

2つの名作を1日で楽しめるのは枚方しかない！

ニットキャップシアター『ヒラカタ・ノート』
2004年 京都芸術センター／© 平野 愛

青年団『東京ノート』2020年 吉祥寺シアター／© 青木司

青年団第90回公演

TOKYO NOTES 東京ノート

作・演出：平田オリザ　　第39回岸田國士戯曲賞受賞作品

舞台は近未来の美術館。

ヨーロッパでは大きな戦争が起こり、そこから避難してきた絵画を前に、家族や恋人たちが、両親の世話や相続問題、進路や恋愛などについて断片的な会話を繰り返す…。

初演から、これまでに13ヶ国語に翻訳された『東京ノート』は、言葉の壁を超えて広く愛されるレパートリー作品として、国内はもとより世界16ヶ国で上演され続けてきた劇団の代表作です。

近年は、台湾、タイ、フィリピンで『台北ノート』『バンコクノート』『マニラノート』を現地で翻案上演、2020年には各国キャストと日本・韓国・アメリカ・ウズベキスタンの俳優も参加し、『東京ノート・インターナショナルバージョン』を上演、複雑さを抱えた近未来の東京を立体的に描き出しました。

『東京ノート』は、1994年、小津安二郎さんの映画『東京物語』をモチーフに書かれました。

それから四半世紀が経ちました。しかし、どれほど社会が複雑化しても、親や子どもの面倒は誰かが見なければならず、人々はそこから逃れられないこと。そのことが女性の社会進出を、柔らかく拒んでいること。これは、小津安二郎さんの『東京物語』から一歩も変わっていません。

もう一つ、この作品の舞台は美術館で、その観点での主題は「見ること」です。

それも「何を見るか」ではなく「誰とみるか」ということです。

『東京ノート』のフランス初演時、私はパンフレットに次のように書きました。

世界の最後の日、あなたはどんな絵が見たいですか？

そして、誰と、その絵を見たいですか？

終演後、どなたかと、このお芝居について語り合っていただければ幸いです。　（作・演出：平田オリザ）

青年団『東京ノート・インターナショナルバージョン』
2020年 吉祥寺シアター／© 青木司

2021年10月8日(金)～10日(日)　枚方市総合文化芸術センター 本館　関西医大 小ホール

［出演］山内健司　松田弘子　永井秀樹　小林 智　兵藤公美　能島瑞穂　大竹 直　長野 海　堀 夏子　村田牧子　中村真生　菊池佳南　佐藤 滋　中藤 奨　吉田 庸　藤谷みき　石渡 愛　木村巴秋　南風盛もえ　山田遥野

10/ 8(金)	9(土)	10(日)
14:00		14:00
	18:30	

＊開場は開演の30分前

＊上演時間：1時間45分（途中休憩なし）

［舞台美術］杉山 至　［舞台監督］武吉浩二（campana）　［照明］西本 彩　［音響］泉田雄太　［衣裳］正金 彩

［宣伝美術］工藤規雄＋渡辺佳奈子　太田裕子　［宣伝写真］佐藤孝仁　［宣伝美術スタイリスト］山口友里

［制作］太田久美子　西尾祥子（sistema）　［企画制作］青年団／（有）アゴラ企画

青年団 ▶ 1982年結成。こまばアゴラ劇場を拠点に、平田が提唱した「現代口語演劇理論」を通じて新しい演劇様式を追求し、90年代以降の演劇界に強い影響を与え続けている。劇団内で独自の企画を行う不定形のユニット「青年団リンク」は若手アーティスト育成の場として、才気あるアーティストを多く輩出。2020年より兵庫県豊岡市の新拠点「江原河畔劇場」からも作品の創作・発信を行なっている。▶ 青年団 twitter @seinendan_org

平田オリザ ▶

劇作家・演出家・青年団主宰。芸術文化観光専門職大学学長。江原河畔劇場・こまばアゴラ劇場 芸術総監督。
1995年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞、1998年『月の岬』で第5回読売演劇大賞・優秀演出家賞、2003年『その河をこえて、五月』で第2回朝日舞台芸術賞グランプリ、2019年『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞受賞。2011年フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。
豊岡市文化政策担当参与、宝塚市政策アドバイザー、枚方市文化芸術アドバイザー。

ニットキャップシアター公演

ヒラカタ・ノート

作・演出：ごまのはえ　　第12回OMS戯曲賞特別賞／新・KYOTO演劇大賞受賞作品

2004年12月に発表された劇団ニットキャップシアターの代表作。

架空の街「ヒラカタ」を舞台に、1990年代を生きる若者達の青春を描いた作品。

主人公は平凡で臆病で真面目な男の子。彼の高校時代から二十代後半までの受難の日々を生々しく描いた。

またときおり幻想的とも言える場面が差し挟まれ、その独特の劇世界が発表時は高く評価された。

死者になにをしゃべらせても、たとえ恨みの言葉をしゃべらせても、

それは生きている人間の事情の反映である。

死者はなにも語らない。

ただ生きている側が死者と交流を持ちたがるだけではないか？

けれど、しかし、

本当の狙いは死者にしゃべらせることにある。

できることなら劇作中に私の右手に神が宿って、

死者の、十代で死んでしまった女の子の言葉を

書き記してくれることを期待している。

（作・演出：ごまのはえ／2004年初演時チラシより）

ニットキャップシアター『ヒラカタ・ノート』
2004年 京都芸術センター／© 平野 愛

2021年10月8日(金)～10日(日)　枚方市総合文化芸術センター 本館　ひらしんイベントホール

［出演］池川タカキヨ　黒木夏海　高田晴菜　仲谷 萌　西村貴治　山谷一也　山本 魚　ほか

10/ 8(金)	9(土)	10(日)
	14:00	
18:30		18:30

＊開場は開演の30分前

＊上演時間：1時間30分（途中休憩なし）

［舞台美術・小道具］仲谷 萌　［音響］三橋 琢　［照明］葛西健一　［舞台監督］河村 都（華裏）

［衣裳］清川敦子（atm）　［音楽制作］真都山みどり　［振付］山田レイ　［演出助手］小山裕輝（テノヒラサイズ）

［絵］竹内まりの　［制作］まいやゆりこ

［企画制作］ニットキャップシアター／一般社団法人毛帽子事務所

ニットキャップシアター ▶ 1999年設立。京都を創作の拠点に日本各地で公演を行っている。芝居／語り／民族楽器の生演奏／歌など、様々な舞台表現と「言葉」を組み合わせて、イマジネーション豊かな作品を作り続けている。▶ ニットキャップシアターtwitter @knitcaptheater

ごまのはえ ▶

© 陸矢美保

大阪府枚方市出身。劇団「ニットキャップシアター」代表。劇作家。演出家。
京都を創作の拠点に大阪、東京、福岡、名古屋などの各都市で公演を続けている。
『愛のテール』で第11回OMS戯曲賞大賞、『ヒラカタ・ノート』で第12回OMS戯曲賞特別賞及び新・KYOTO演劇大賞。
また劇団での活動と並行して、様々な地域を題材にした創作も続けている。これまでに、大阪府吹田市、兵庫県伊丹市、京都府舞鶴市などを取材し、その街を主題にした作品をつくっている。